

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572607448
法人名	有限会社たんぽぽ
事業所名	グループホームたんぽぽ
所在地	秋田県仙北市角館町藪田別当村211 (電話) 0187-52-2540
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤 5丁目1-1
訪問調査日	平成21年8月31日

【情報提供票より】 (21年8月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 14年 8月 1日
ユニット数	ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	14人 常勤 8人, 非常勤 6人, 常勤換算8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造り 2階建ての 1~2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (8月4日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79.5歳	最低	53歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村内科医院・市立角館総合病院・城南堂歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「信頼されることに依り、安心して心を開かれ、笑顔が自然に見られる生活環境を作る」という分かりやすい理念を支援の拠り所としてサービスを提供している。ホームは、一般住宅を改修して作られ、とても馴染みやすい建物となっており、職員が家族の一員としてそれぞれのスタンスで、自然にかかわりを持ち希望や要望にすぐに対応できるよう努力している。特に、外出の支援は入居者の個々の希望に添った支援や、遠出をして普段なかなかいけない場所にも行けるよう支援したりと頑張っている。ホームのおかれている環境は、自然に囲まれ車の往来も少なく、ゆっくりと散歩ができ地域交流も積極的に行われ地域に上手く溶け込んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	入居されている方の生活歴などのアセスメントの不足が改善課題とされていたが、アセスメント内容の充実に向けて新たにセンター方式を取り入れるなど努力されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	職員が各自自己評価を行い、自分達のケア内容について振り返り、気付きを得る良い機会として捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者・利用者家族、地域代表、保険者の担当者などが参加し、2ヶ月に1回定期的に開催され、会議で出された意見や要望を職員で検討し直ぐに対応するよう努力されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議で出された家族からの意見や要望・苦情、また日々の生活の中でくみ取った意見や要望を月に1回開催されている職員会議で検討し直ぐに対応するよう努力されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的に散歩に出かけたり、納涼祭を開催し地域の方に参加していただいたり、地域のボランティアを受入れたり地域との連携が図れるよう努力されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	どのような理念にするかを職員が意見を出しあってまとめ上げた。とても分かりやすい言葉でホーム独自のものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目のつくところに掲示され、職員会議やカンファレンスで行われるケアについて、最終的な拠り所として理念が位置付けられている。		職員は、入居者の笑顔が一番と実践に向けて日々取組まれているが、具体的なケア内容において、個々の思いが先行してしまい、ケアに違いが生じてきているので、統一されたものとなるよう期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭を開催し地域の方を招待して一緒に楽しんだり、小学生が課外授業の一環として訪れたり、踊りのボランティアを受入れたり地域との交流を図ることに努力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、自らのケアの中に気付きを得たり、反省をしたりと、次の評価に向けて改善できるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催され、出席者・検討内容等を記録し、会議で出された課題については職員会議で検討し、改善に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、保険者の担当が毎回2名出席し、顔なじみの関係を築いている。		今後も、行政との関係を密にし、地域のグループホームの現状やサービスの取り組みについて情報提供し、連携を更に深められ質の向上となるよう期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを送る際に、担当している職員から一言添えたり、金銭については、明細を定期的に送って確認していただいている。また、状況や状態に変化が生じた場合も随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には運営推進会議で意見や要望を出していただいている。また、面会時に家族の表情や態度等を良く観察するようにしており、いつもと違う様子を感じた際は、良くコミュニケーションを図るようにしている。意見や要望があった際は職員会議に報告し、みんなで検討し改善を図るよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までは、スムーズに職員の交代ができており、特別大きなダメージを入居者に与えることなく新人職員と入れ替わっている。		今までは、大きなダメージを与えることはなかったが、今後はいろいろな状況に対応できるよう積極的にダメージの回避方法を考えられることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数が人員基準よりも多く、研修に参加しやすい環境にあり受講する機会に恵まれている。受講報告や勉強会も行われているが、個人の思いが先行したケアが見られたり、意思の統一が上手く図れないことがある。	○	受講報告や勉強会は定期的に行われているが、実践の現場に活かされるまでには至っていない。今後、更に職員の育成を行い全職員のスキルアップが図られ、統一したケアができるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北連絡協議会に入会しており、研修に参加して情報交換等を行っている		今までは、管理者が主に参加されていたので、今後は職員の誰もが参加でき、交流や連携により資質の向上が図られるよう期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	管理者の事前訪問によって知り得た、趣味や得意なことを個々に合わせて、入居後のレクリエーションの際に活用し、場の雰囲気に馴染めるよう工夫されている。		今後は、不安なく入居できるよう入居前の事前訪問を工夫したり、入居前に遊びに来て頂くなど取組まれるよう期待する。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事の際に野菜作りのコツを教えていただいたり、山菜のアク抜きを教わったりと、共に過ごす中で支えあう関係となるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図ることの重要性を理解し、本人の意向や考えを会話の中から把握するよう努力している。	○	アセスメントの充実を図るためにセンター方式を導入して取り組んでいるが、まだ一人ひとりの介護計画に活かされたものとはなっていないので、これから更に充実を図り活かされていくことを期待する。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族、担当職員、介護支援専門員、管理者等で、意見を出し合っってその方に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回、個々のカンファレンスを行い定期的に介護計画の見直しを行っている。また、状態の変化に合わせて随時見直しも行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診に付き添ったり、行きつけの美容院へ行きたいと希望があれば付き添ったり、入居者に合わせた柔軟な支援が行えるよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に重要事項説明書で、かかりつけ医や協力医の説明を行い入居者や家族の意向を確認して希望に合わせた支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を受けて過去にターミナルケアを経験したこともある。今後も、家族や協力医、職員の間で終末期に向けての支援を行なおうと検討している。	○	以前に経験したターミナルを振り返り、その課題に対して改善策を検討する等、職員全体のスキルアップを図られることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の管理は鍵の掛かる書庫に保管されており、個人情報の取扱に気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅で生活していたように過ごしていただきたいという思いから、今日一日どう過ごしたいかなどと、意向の把握に努めできるだけ希望に添った支援を行って、笑顔が見られるように努力している。		今後も更なる努力を重ねられ、その人らしい暮らしを支援することができるよう希望する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事委員会を立ち上げ、嗜好調査を行ったり献立を一緒に作ったり活動している。また、現在ははないが希望があれば嗜好品を楽しむ準備体制ができています。		食事委員会で、今後味付けについても入居者の方に参加していきたいと考えて準備を進めているので、実現できるよう期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	朝に健康チェックを行い、体調や希望に合わせた支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえや洗濯をたたんだり、おしぼりをたたんだり、自分なりにできることを見出し、役割として自主的に参加できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけたり、墓参りの希望のある方とは毎月命日に墓参りに行ったり、ドライブに行ったりと外出の支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関に鍵をかけないで、外出傾向の見られる方は注意して見守りながら、一緒に行動したり、外出したりして支援しているが、夜間は戸締りをして安全性を重視している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回消防署の協力を得て避難訓練を行っている。また、運営推進委員会の方にも協力を依頼している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量については十分に気を配っている。また、摂取量についても把握され記録されている。	○	入居者の体重が増加傾向にあるので、今後は専門職とのかかわりを図り、栄養バランスについても、献立の作成時に配慮されることを希望する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるよう「よしず」や「朝顔」で採光を調節していたり、季節の花を飾ったり、居間や廊下にソファを置いてゆっくり過ごせる空間があったりと居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に、本人や家族に使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、自宅から持ってきていただくよう働きかけている。		

※  は、重点項目。